

○委員長（見付 宗弥）

- ・ 欠席委員連絡（板倉委員）
- 

○委員長（見付 宗弥）

- ・ 開会宣告
  - ・ 議題の確認
- 

1 調査事件

(1) 新型コロナウイルス感染症陽性者の誤掲載について

○委員長（見付 宗弥）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、5月29日付けで資料が配付されている。その内容を確認する必要があると考えことから、理事者の出席を求めたいと思うが、各委員いかがか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（保健福祉部 入室）

○委員長（見付 宗弥）

- ・ それでは、説明をお願いします。

○保健福祉部長（大泉 潤）

- ・ 資料説明：新型コロナウイルス感染症陽性者情報の誤掲載について（令和4年5月29日付 保健福祉部調製）

○委員長（見付 宗弥）

- ・ お聞きのとおりである。ただいまの説明について各委員から何か発言あるか。

○日角 邦夫委員

- ・ まずはこのコロナ禍の中で保健所の業務、本当に大変な思いをしながら従事していることは重々理解している。その上で、この問題について何点か、気が付いたこと、考えることがあるので聞いていきたいと思う。
- ・ 一つは、チェック体制の話在先ほど部長がしていたが、要因の問題としてそれは十分に確保されている上でのことなのか。例えば人が足りなかったとか、いなかったというふうに聞いているので、その辺はどうなのか。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 当日は土曜日ということで平日に比べると出勤して業務に対応している職員数は当然少ないという部分はあった。ただ一方で、ホームページの更新・公開作業については職員1名が——これは毎日交代でやっているが——職員1名が調整・整理して、それを別の職員が承認という形でチェックをして初めてホームページに公開するというので、作業自体は平日でも一人で行っていることだ。ただ今回の場合については、周りにも他の業務を行っている職員はいたが、その承認を行う際にたまたま

イミングが合わずれたため、その職員が自分で承認したという形になっており、体制としては基本ルールに則ることができるものではあったと認識している。

#### ○日角 邦夫委員

- ・ わかった。管理者側の心構えとして従事している人に対して個人情報——大事なものを扱ってるんだぞではなくて、扱わせているっていう立場でもある。だから職員がそのことを理解しながらスムーズに守っていけるなという体制をやっぱりちゃんをつくっていかなければならないと思う。資料だとか記事を見ると矢印が一方的なので、私は決してそうではない、お互いに矢印は向き合っているんだと、お互いに大切な情報を扱っているんだと、そのためにはきちんと仕事をさせるのではなくて、そういう環境をちゃんと整えてやるってことが私はいちばん大事だというふうに思う。
- ・ あってはならない事象だが、そういうことはある。ネット上でも調べれば本当にいろいろある。ほとんどの場合は相手先を間違ったりだとか余計なものをつけたりそういう事象だが、逆にそういう事象を起こした職員に対して、どうやってフォローしていくのか。決して悪気があってやるわけではないけれども、事の重大さを鑑みればちょっとしょぼんとなっちゃうっていうのはあると思う。今後の対策は聞いたが、その職員に対するフォロー体制はどういうふうに考えているのか伺いたい。

#### ○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 対象となった職員に関しては、やはり今お話があったとおり本人も相当その場では落ち込み、当日はなるべく早く帰すという対応をさせていただいた。翌日以降だが、担当課長の方からもフォローアップということで声掛け含めて、気にするなどはもちろん言えないが、あまり気にしすぎて本人の気持ち落ち込まないように、その辺声掛けという形にしかならないが、そういった形で日々目配りや意思疎通を図りながら対応している。
- ・ また、その個人だけではなく、同じ業務に従事する職員が全員で8名いるため、その8名の中でも今回のことを改めて共有した上で、そういったミスは誰でも起こし得ることを前提にしながら職場での意識という部分での話し合いなども進めているところだ。

#### ○日角 邦夫委員

- ・ どうしてもミスを起こすと隠す——私なんか特にそうなんだが——これはそうではないというか、例えば千葉県だったか、誤送信したと。どこにしたのか調べようとしたら、その担当者が送信記録を全部削除して調べようがなくなったという事例がある。だからミスはミスとしてきちんと受け止めながら後処理をどうしていくのか。そうなった場合、どういう対応をしていくのかっていうことなんかもちんちんと——マニュアルとは言わないが——対応できるような体制を取っていかなければならないのではないかと思う。本当にあってはならないことだとは思いますが、絶対ないとは言えないので、その辺の対処、さらにはその後の対処。
- ・ 今回通報来るまで30分間わからなかったということで、掲載してから職員の方がきちんと掲載されているのか検証するみたいなのはいいのか。

#### ○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 今回の掲載した部分というのが先ほど部長の方からご説明したとおり過去情報のページということで、我々も職員の方もいちばん大事な当日発表分については必ずチェックはしている。ただ過去情報

の方については再掲載というイメージがあるため、毎回チェックしていなかったというのが現実にはある。そういった意味では、今回の事案をきっかけにして改めて当日発表分の最新情報だけではなくて別の部分も確認するように努めていく。

○日角 邦夫委員

- ・ そういうことであるので、これからも十分注意をしながら取り組んでいていただきたいということを書いて私からは終わる。

○藤井 辰吉委員

- ・ 確認だけだが、先ほど次長からこの業務に当たっている方は8名いらっしゃるというふうに聞いたが、その承認の権限というか、それを与えられている方もその8人の中にすべて含まれているということか。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 承認の権限はその組織に与えられている。組織の中に所属する職員が誰でも承認できる形になっている。

○藤井 辰吉委員

- ・ その組織で承認できるとされる通常ほかの業務に当たっている方も土曜日にいたということか。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 土曜日はそのホームページの作業に当たった者については当然一人で作業していたが、疫学調査も並行して行っている。同じセクションの中に保健師も含め、ほかの職員も出勤していたので、体制としては可能な体制だった。

○藤井 辰吉委員

- ・ 私もかつてというか今もITの方の業務に携わっていることがあるので、そのホームページの更新とかっていうものも携わっている方だとは思いますが、その中で先ほど言葉の表現としてそのデータを調製した本人が自分で承認したという表現をされていたが、承認が下りるタイミングに時間差が生まれると、その承認が下りるまでいつアップしよういつアップしようって待たされるのが嫌で自分で認めちゃえみたいな感じでやったりもするかなと思うが、その承認をもらうまでの間に時間差っていうのは特に生まれるような状況ではなかったということか。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ タイムラグがどのくらいかっていうと、正直その辺の場面についてははっきりしていないが、作業を終えてあとは承認作業さえすればホームページ公開の予約は済むという段階で、ほかの職員に承認できるタイミングがなかったということが今回の要因だと考えており、作成完了から承認までの間の時間がという部分についてはあまり影響ないのかなと考えている。

○藤井 辰吉委員

- ・ 最後に1点だけ確認だが、今回はたまたまというか、載せてはならぬ部分の情報が残ったままアップされたが、今回のこの土曜日に限定してたまたま承認が取りにくかったのか、それともやや日常的に——もう2年間続いている話なので——慢性的に自分で見てまあオッケーだなと思ったらやってもいいかなみたいな空気感ができてたかどうか確認させていただいて質問終えたいと思うが、実際どう

か。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 曜日に関わらず毎日ある業務なので、平日に関しては当然周囲に職員が満席でいるため、そういった中では基本ルールに則った対応はされているものと認識している。一方、土日祝日——休日での対応になると、どうしても今回のように作業に必要な人数は確保されてはいながらも、そのタイミングでちょっと席外したりだとかたまたまその瞬間一人しかいなかったという部分もなかったとは言い切れないというふうに考えているため、原則ルールとしては当然別の職員複数でチェックした上で更新という形になると思うが、可能性としてはこれまでもそういった作業があったかということは否定できないというふうに考えており、当然そういった部分も踏まえて改めて基本ルールの徹底ということで複数でチェックするという部分を職員間にも共有させていただいたところだ。

○藤井 辰吉委員

- ・ そういう感じだろうなという受け止めというか見方をされていたということで、先ほど日角委員の質問にもあったようにご本人のケアも——当事者の職員の方のケアと、報告にあったように通報があった方とのやりとり、名前が公表されてしまったご本人たちともやりとりしてその後の整理もついているということなので、あとはこれを機により注意深くというところは当然なさるかと思うが、今回のこの案件、特に2年前だと犯人探しとかなんか魔女狩りみたいなそういう感じで、家庭、家族、地域がすごく敏感に——今でももしかしたらすごく敏感になっている方がいるかもしれない、家族とかに被害も及ぶかなと思うので、当然ながらこれからはより一層注意深く扱っていくかと思うが、我々も地域のケアに関しては一緒にやるので、またミスが起こらないようにやっていきたいと思いますという感想で以上だ。

○中山 治委員

- ・ ちょっと確認で81名の載った方だが、電話対応されたということだが、その中でのご意見というかあっちがもう怒ってしまってすごく揉めているとか、今そういったのはもうないということでしょうか。

○保健所次長（扇谷 圭一）

- ・ 当然最初の第一報をご本人の方に手分けして掛けた際には、相当なお叱りを受けた場面もある。ただ一方ではほとんどの方が結果として謝罪に対してご理解いただいた。若干1名まだ本人がどういったものが公表されたのか現物を見ないと何とも言えないという話もあり、本人のものとはいえ個人情報になるのでそういったものも含めて、まずは一度療養期間が明けてお会いできるようになってから改めてお会いするという部分では1名まだ残っているという状況になっている。

○中山 治委員

- ・ 1名の方がそういう形であるということなのでその辺もしっかりとしたフォローをしていただいで今後このようなことないように進めていただければと思う。

○委員長（見付 宗弥）

- ・ 他に発言あるか。（なし）
- ・ このコロナ禍、2年経ち3年目を迎えて、本当に保健福祉部また保健所のみなさんは土曜日、日曜

日もなく、年末年始もなく、ゴールデンウィークもなくご尽力されていることに改めて敬意を表したいと思う。そしてまた今回のこのミスは個人に対する責任はもちろんあるが、システムとしてこういうミスが二度と発生しないようにそういった取組、今後の対応を進めていただきたいということをお願いする。

- ・ 理事者は退室願う。

(保健福祉部 退室)

- ・ 議題終結宣言
- 

## 2 その他

### ○委員長（見付 宗弥）

- ・ 次に、2のその他だが、3月10日の予算特別委員会民生分科会後、調査事項について、3月中を目途にご提案いただくようお願いしていたところ、板倉委員から調査事項として「函館市のゼロカーボンシティ実現への取り組みについて」についてご提案があった。
- ・ 内容としては、函館市は本年度の市政執行方針において、ゼロカーボンシティ宣言を行い、2022年度からの地球温暖化対策実行計画を現在策定中であるが、近年の自然災害の多発に見られるように、地球温暖化による影響は重大な懸念事項であり、新計画が効果的な施策を盛り込んだものとなるか調査する必要があるといったものだ。
- ・ ご提案の趣旨からすると、本件については新計画が理事者から示された段階で調査すべきものではあるが、板倉委員から提案を受け、正副としては新計画の調査を行う前に本市の現行計画やその検証についての把握、また新計画が国および北海道の施策や削減目標との整合性を図る必要があることなどから、それらの状況について委員会で共通認識を持つておく必要があると考えている。
- ・ そこで、本会期中の常任委員会を開催し、調査事件としてまずは現計画の取り組みや検証などについて、理事者から説明を受けてはどうかと考えるが、いかがか。（異議なし）
- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 議題終結宣言
- ・ 次回は6月6日月曜日、午前10時より第3委員会室において民生常任委員会を開催するのでご参集願う。
- ・ 散会宣告

午前11時24分散会